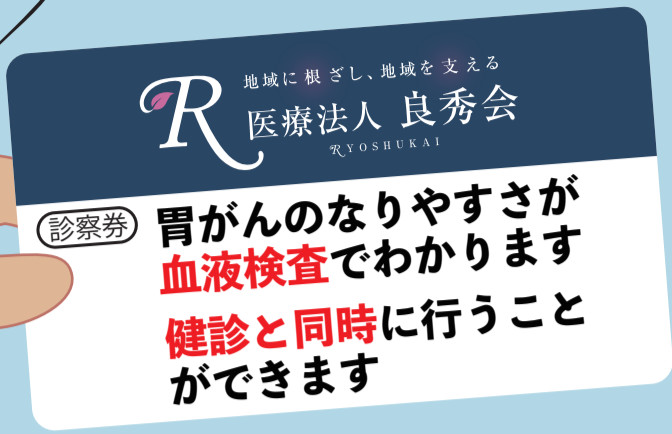


胃がんリスク検診

メリット



胃がんは気になるがバリウムや胃カメラは抵抗がある

胃がんはこわいが胃カメラもこわい



こんな人にお勧めします

検査内容

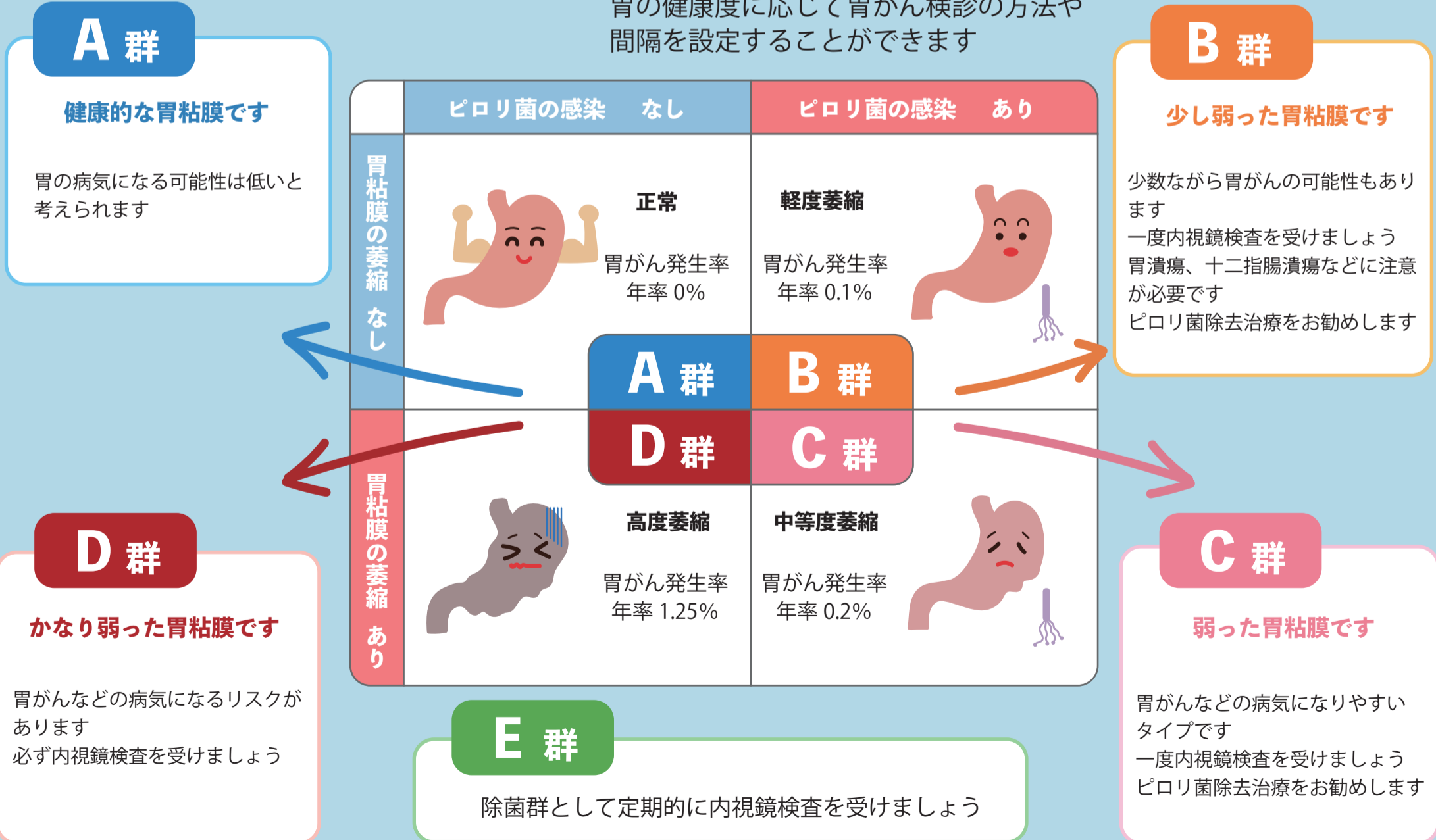
胃、十二指腸潰瘍の主な原因と考えられているヘリコバクター・ピロリ菌の感染と胃粘膜の萎縮（老化）を同時に採血で評価し、**胃がんのなりやすさを調べる検診です**

この組み合わせ分類を用いて胃がんのリスク状態や精密検査の必要性を判断することが可能となります

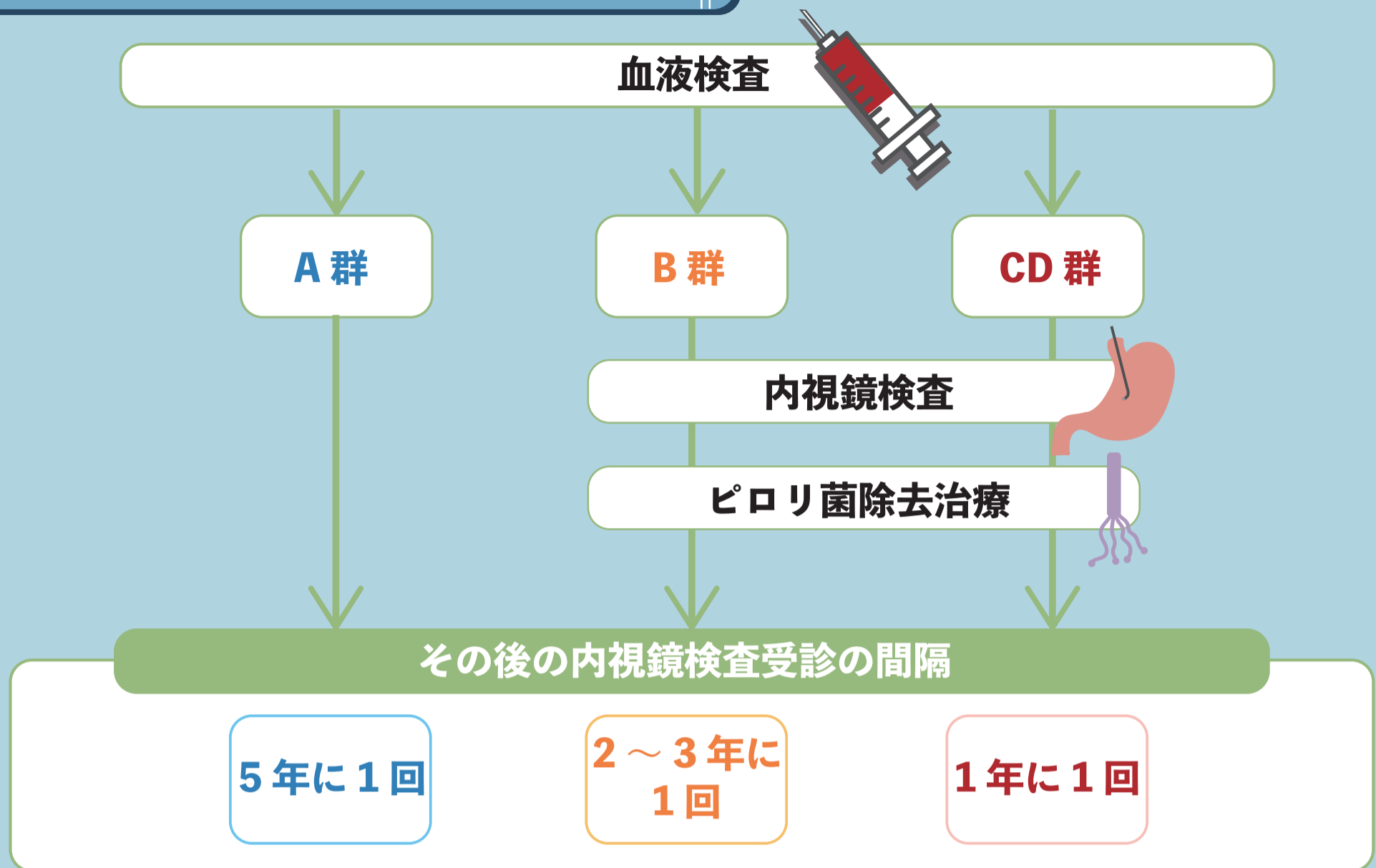
ただしあくまでも胃粘膜の萎縮の有無とピロリ菌感染の有無＝胃がんのリスクが高いかどうかを調べる検査であり、**胃がんそのものを見つける検査ではありません**

A~Dの分類図

胃の健康度に応じて胃がん検診の方法や間隔を設定することができます



分類による今後の対応フロー図



次のような方は ABC 検診に適しません

- 胃の病気を治療中の方
- 胃を切除された方
- 胃酸を抑える薬を服用中の方
- 慢性腎不全の方
- ピロリ菌を除菌された方

Q&A

Q ピロリ菌に感染するとどうなるの？

A ピロリ菌に感染すると、萎縮性胃炎や胃・十二指腸潰瘍を発症することがあり、とくに萎縮性胃炎で胃粘膜の萎縮が進むと、胃がん発症の可能性が高まります。

Q 判定が A 群なら胃がんにならないの？

A A 群に判定された場合には、胃がんになるリスクは低いと判断されますが、胃がんの心配が全くないわけではありません。症状などがあれば速やかに医療機関で受診してください。この点は、従来のバリウム検査も同様です。また、定期的に胃カメラ検査を受けることをお勧めします。

Q 胃がんリスク検診で本当に胃がんになるリスクが判定でき、胃がんの早期発見につながるの？

A 胃がんになりやすいリスクの高低はわかりますが、最も重要なことは、胃がんリスク検診を受けたあとの対応です。リスクありの B 群・C 群・D 群と判定された方は、必ず精密検査（胃カメラ検査）を受け、ピロリ菌除菌についても、医師とご相談ください。また、ABCD 分類に適さない方、特に過去にピロリ菌除菌を行った方は、定期的に胃カメラ検査を受けることをお勧めします。